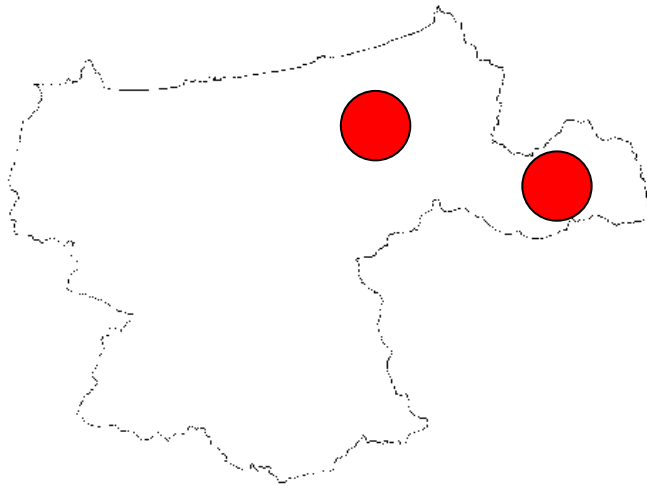


「まちなか」と「中山間地域」 の老人世代交流事業

鳥取県 鳥取市

特定非営利活動法人ラーバンマネジメント

活動地域の概要



【位置図】鳥取県鳥取市



【鳥取市遷喬地区】

遷喬地区



中山間地域(成器地区)



「まちなか」と「中山間地域」

「まちなか」とは
遷喬地区

- 鳥取市中心市街地
- 約1,000世帯
- 人口約2,500人
- 高齢化が進んでいる

「中山間地域」とは
国府町成器地区

- 中心市街地から北東
約20キロの山間地域
- 223世帯
- 人口684人
- 高齢化率60%以上

活動地域の課題

- 「まちなか」も「中山間地域」も年寄りが増え続ける。
- 住民は将来に対する不安でいっぱい。
- 地方自治体は財政逼迫による行政執行力が硬直化して対応が遅れている。
- 地域の現状に対する不満を解消する必要性。
- 「まちなか」の元気を取り戻す必要性。
- 「中山間地域」の集落機能を維持していく必要性。

結論

地域に元気を取り戻す試みが必要である。

地域に元気を取り戻す課題解決の方策

- ① まちなかの人的資源を結集するコミュニティ施設を確保し、そこを拠点に「まちなか」と「中山間地域」の住民の交流を開始する。
- ② 「まちなか」で朝市の恒常化を試みる。
(「中山間地域」の農林業関係者が出店)
- ③ 「まちなか」と「中山間地域」双方の住民との積極的な交流(元気をもらい、元気を与える)を進める。
- ④ 元気を取り戻すための主力メンバーを50代後半から70代前半とする。

21年度の活動の内容

- ①遷喬地区の元魚町1丁目の空き店舗を借りる。
- ②遷喬地区内で「野菜の朝市」を開催し、その恒常化をめざす
- ③「まちなか」(遷喬地区)と「中山間地域」(成器地区)の老世代交流会を開催

22年度の活動の内容

水源地域活性化調査業務として交流事業を継続

①調査事業の実施

- ◎両地域のコミュニティと相互補完の可能性について
- ◎地域間交流から生まれてくる活性化事業について

②地域間活性化事業の実施

- ◎朝市の開催(8月から12月の5ヶ月間で10回開催)
- ◎両地域にある伝統的な技術や生活文化の「交流展」の開催

③水源地域の活性化を考える「地域交流大学」の開講

- ◎講師を招き講演会、ワークショップ、報告発表会を開催する
- ◎「まちなか」と「水源地域」との「老世代交流会」の中で実施

21年度の活動の成果

- ①遷喬地区の元魚町1丁目の空き店舗を借り、「よりあい処元一」を開設



21年度の活動の成果

② 21年度遷喬地区内で「魚と野菜の朝市」を開催した



21年度の活動の成果

③「まちなか」(遷喬地区)と「中山間地」(上地地区)の老世代交流会を開催



22年度の活動の成果

①調査事業の実施

遷喬地区と成器地区の65歳以上を対象にアンケート実施

～ まちなかと水源地域老人世代交流事業 ～

**遷喬地区・国府町成器地区65歳以上の方対象
「生活環境と生活意識」アンケート調査集計報告**

遷喬地区・国府町成器地区の65歳以上の方を対象に「生活環境と生活意識アンケート」調査の実施に当たりましては、皆様にご協力をいただき誠にありがとうございました。集計結果がまとまりましたのでご報告致します。
今後の活動の指針とさせていただきます。引き続きご支援の程よろしくお願い致します。

調査期間	平成22年7月～9月	平成22年10月吉日
遷喬地区調査人数	80名	遷喬地区まちづくり協議会
成器地区調査人数	79名	まちづくり・いきいき成器の会
合 計 調査人数	159名	NPO法人ラーバマネジメント

(イ) あなたの年齢は、どれにあたりますか。

	遷喬地区	成器地区	合 計
65歳～70歳	31名	15名	46名
71歳～75歳	21名	21名	42名
76歳～80歳	11名	22名	33名
81歳以上	17名	21名	38名

(ロ) あなたは男性ですか、女性ですか。

	遷喬地区	成器地区	合 計
男 性	47名	32名	79名
女 性	33名	47名	80名

(ハ) 現在、職業に就いておられますか。

	遷喬地区	成器地区	合 計
職業に就いている	37名	15名	52名
職業に就いていない	43名	64名	107名
職業に就いている人は			
会社等に勤務	24名	7名	31名
自営業	9名	6名	15名
その他			

(ニ) あなたの家族構成についてお聞きします。

	遷喬地区	成器地区	合 計
一人暮らし	12名	12名	24名
夫婦のみ	29名	21名	50名
子供と一緒に	19名	20名	39名
孫と一緒に	17名	19名	36名
その他	7名	7名	14名

(ホ) あなたの今の暮らし（生活）について、お聞きします。

	遷喬地区	成器地区	合 計
満足している	27名	25名	52名
普通である	47名	42名	89名
満足していない	4名	10名	14名
わからない	2名	2名	4名
満足している方の理由（複数回答あり）			
衣・食・住に不足がない	25名	15名	40名
のんびりと暮らしている	6名	9名	15名
健康である	20名	10名	30名
災害の危険がない	5名	0名	5名
話し相手がいる	12名	7名	19名

(ヘ) あなたが思われる、豊かな暮らしとは何ですか。（複数回答あり）

	遷喬地区	成器地区	合 計
毎日ゆっくり生活する	24名	14名	38名
夫婦で毎日仲良く過ごす	21名	13名	34名
自然の恵みに、毎日感謝して生きる	20名	17名	37名
毎日農作業に忙し、収穫を喜ぶ	1名	16名	17名
毎日が健康である	58名	49名	107名

(ト) あなたが思われる、今の暮らしに不足していることは何ですか。（複数及び無回答あり）

	遷喬地区	成器地区	合 計
総出でする地区の行事	12名	5名	17名
話し相手	11名	13名	24名
若い人	18名	6名	24名
交通の便（路線バス）	2名	20名	22名
診療所や病院	2名	9名	11名
子供との触れ合い	2名	8名	10名
買い物をする店	16名	12名	28名

(チ) あなたが思われる、今住んでいる場所の一番良い所、自慢にできることは何ですか。その他は、思われることをお書きください。（複数及び無回答あり）

	遷喬地区	成器地区	合 計
自然環境に恵まれている	32名	55名	87名
住民で地区を守る	10名	11名	21名
助け合いで、明るく生きている	23名	27名	50名
お祭りや集まっている	5名	3名	8名
その他	23名	0名	23名

※その他に書かれた主な内容
○公共機関（役所、学校等）、買い物店、医療機関、交通の便等にかつて生活に便利
な所です。
○住民同士にもめごとが少なく、明るく穏やかに、静かに暮らせる。

(リ) あなたの「いきがい」は何ですか。その他は、思われることをお書きください。（複数及び無回答あり）

	遷喬地区	成器地区	合 計
元気で暮らす	62名	57名	119名
孫達の成長	24名	15名	39名
近所・仲間との交流	19名	23名	42名
散歩	7名	4名	11名
テレビ・ラジオの視聴	12名	7名	19名
読 書	14名	5名	19名
旅 行	13名	7名	20名
その他	11名	2名	13名

※その他に書かれた主な内容
○趣味に生きている。探究し、継続する（釣り、読書、野草採り、絵画、手芸、車）。
○生き方、考え方を表現し、真剣に話し合う時や場所がある。
○地域への貢献がボランティア。

(ヌ) あなたが、今一番やってみたいと思う事は何ですか。その他は、思われることをお書きください。（複数及び無回答あり）

	遷喬地区	成器地区	合 計
家族旅行	37名	32名	69名
彼・（傘）踊り大会	1名	4名	5名
地区対抗歌合戦	1名	3名	4名
同窓会	9名	5名	14名
その他	28名	4名	32名

※その他に書かれた主な内容
○持病を治しトレーニングを始め、体力回復と各種スポーツに挑戦。
○町内会総出で行う行事（ワラビ取り、板瓦、スイカ割り、遠足等）を実行し、逐次輪を
広げ地域内の相互親和、助け合いの精神を作る。
○地域活動として各町内の高齢者を取り巻く関係の整備、特に、「近所お助け運動」に
取り組んでみたい。町内会の活性化をもっと大切になりたいと思いますが、高齢者が集
しづみやすいまちづくり活動へと発展させてみたい。
○集落の懇話会を開催する。そして、他地区民との交流を進める。
○もう少し世帯がほしい。防災訓練等仕事に参加する人が限定されている傾向がある。
お互いに地域を守る事に努めてほしい。
○国府町と協議され、冬期は毎月1回くらい、午前中野菜類の販売を遷喬公民館で実施
することが出来ないか。

8月21日
第1回
老世代
交流会
活動報告



成器地区公民館でワークショップ



南浦で昼食と散策

22年度の活動の成果

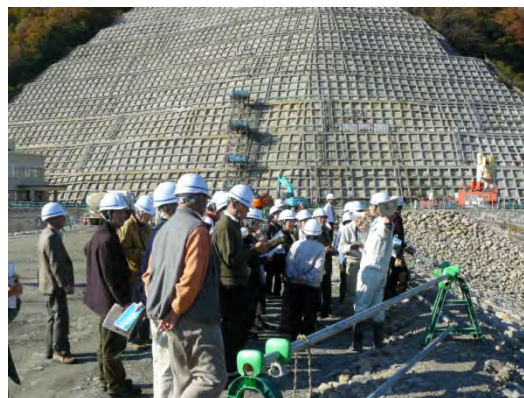
②地域間活性化事業の実施

- ◎21年度同様遷喬地区内で「野菜の朝市」を開催
- ◎「交流展」の開催
- ◎情報誌の発行



22年度の活動の成果

③水源地地域の活性化を考える「地域交流大学」の開講 「まちなか」(遷喬地区)と「中山間地域」(成器地区)の老世代交流会の開催



今後の課題及び展望

・課題

コミュニティ施設と朝市の継続について

- ◎コミュニティ施設を設置するにあたり、空き店舗をいろいろ当たったが、どの物件もトイレが無く年寄りが対象者なので仮設トイレを用意したが、利用頻度は芳しくなかった。
- ◎あさいちを実施するに当たって遷喬地区のお年寄りを中心に住民が希望する「あさいちお買い物アンケート」を行った。その結果、魚介類の希望が一番だったので、当初予定してなかった魚屋さんを出店することになったが、事前に意向調査を行って取り組んだのは評価できる。

今後の課題及び展望

・課題

老世代交流会について

◎交流会の開催時期があさいちの後だったので、あさいちの時はお互いが手探りの状態で実施した。

◎第2回交流会のワークショップで、あさいちの前に交流会を行っておくべきではなかったかとの意見があり、いろいろな事情があったにせよ綿密に事前打ち合わせをしておれば問題は起きなかったので運営方法について課題があった。

今後の課題及び展望

・展望

- ◎「水源地域」と「まちなか」が相互の交流を豊かにすることにより、生き甲斐のある長寿社会形成への関わり方を発見し、それらを通じて両地域が活性化することにより地域が持続し、次世代に渡すことができる。
- ◎交流会は年寄りが慌てずに堂々と生きている現在を語り、双方の地域の良い面を検証できた。この交流は継続できると考えている。

その他

助成金による事業から脱却するためには、それぞれの地域が自立しながら交流する事業のやり方、進め方等を今後提案していく必要がある。そのためには、専門家の助言を受けながら、ボランティア活動と営利事業の違いについて識別と見極めの研修交流を活発にすることに取り組みたい。